

山岳友の会会報

2017年4月 第25号



第30回現地研修会（信大乗鞍ステーションにて）

もくじ

第30回現地研修会	報告 鈴木 一	2
生物多様性を巡り ～春を求めて小田原・箱根方面を訪ねて～		
	報告 小林 久雄	4
2017年度通常総会	報告 小林 久雄	5
2017年度通常総会資料		6

第30回現地研修会報告

2017/2/4, 5 に信大乗鞍ステーションで行われた第 30 回現地研修会に参加させて頂きました。

2/4(土)は日本列島全体が移動性高気圧に覆われて最高の快晴となり、私は朝から乗鞍スキー場でスキーをした後に、集合時間である 15:30 に乗鞍ステーションに伺いました。私にとって乗鞍ステーション



は初めてで、どのような処かと楽しみにして参りました。乗鞍高原の国道から見ると市営銀山荘の裏手に立地しており、初めてだと少しわかりにくい場所とも言えますが、銀山荘をナビに入力してたどり着くことができました。国道からステーションに向かう支道に入る場所とステーション玄関前に木製の看板はあるものの、いささか字がくすんで見にくく、「本当にここで良いのだろうか」などと不安な気持ちを抱えながらでしたが、玄関を開けると玄関前のロビーでは数名の方々が早くもストーブを囲んでビールを片手に談笑しておられるのを拝見し、さっそく挨拶もすることが出来てホッといたしました。私などは年に2、3回程度の参加しか出来ておらず、またこれと言って特段の経歴も特長もない一個人なので、いつも最初はドキドキしながら参加しているのですが、今回も親切な皆様のおかげですぐに仲間に入れてもらえて、指示された 2F の大部屋で自分の寝床を作った後には、ストーブ周りの談笑会に加えてもらいました。食堂では調理の方々が忙しく準備されており、4つのテーブル上では大きなざるにそばが盛られ、鍋用のコンロが用意されていて、今晚の料理にも期待が高まります。私も準備のお手伝いをなどとも思ったのですが、特に出来ることも無いので、調理の方々には挨拶だけしてちゃっかりとビール組の諸先輩の輪の中に入ってしまった。優しい皆様に感謝のひと時でした。



しばらくすると今日の講師として「穂高のおもしろ話」をして下さる次田経雄先生が到着され、ステーション内の研修室で講演資料の準備に入られました。次田先生は 1964～1975 年の間、北穂小屋で小屋番などをされて穂高を知り尽くした方であり、滝谷のクライマーの救助などでもご活躍された方です。そして現在は、登山スクール、山岳ガイド、バックカントリースキーガイドなどを主宰されておられています。私も月刊誌「山と溪谷」や山岳書などを通じて、次田先生のお名前だけは存じていましたので、ぜひともご講演をお聞きしたいとの思いで今回の研修会に参加させて頂きました。

さて、5 時頃より今回のメインイベント、次田先生の講演会が始まりました。半世紀前の北穂小屋の話、滝谷の話などがあり、番外編として遭難救助の様子などのお話もあって、

北穂小屋の当事者ならではの貴重なお話をお聞きすることが出来ました。私は 40 代中頃から高所恐怖症を患い、今は遠くから眺めるだけになってしまった穂高岳ですが、それでも憧れの山である事には変わりなく、興味深いお話の数々をお聞きすることが出来ました。当時の山小屋にはヘリを使った空輸などは無く、100kg 近くもあろうと思われる LP ガスボンベや 40kg のバッテリー 2 個などを次田さんも含めた山小屋スタッフが横尾からボッカしたという話、天水に頼っていた水が不足する時期などは北穂の池まで水を汲みに行き、中の水が揺れるポリタンクを背負って北穂東稜のゴジラの背を通過して運んだという話、春の小屋開け時には小屋は全て雪に埋もれていて山頂が雪のピークになっている中、秘密の入り口を目指して雪を掘り進んでいくなどの話、などなどでした。私は冬はスキーをやりますし、バックカントリースキーにも興味があるので、スキーのお話もお聞きしたかったのですが、それはそれとして、貴重な北穂小屋や滝谷のお話が聞けただけでも素晴らしかったと思っており、感謝しております。

講演会の後は、4 つのテーブルを一つにまとめて鍋を囲んでの夕食会です。いや、山岳友の会の場合は恒例の大宴会と言ったところでしょうか。諸先輩方々が差し入れて下さった高級日本酒、ウイスキー、ワインなどの紹介に始まり、次田先生もご同席されて今回の参加者 16 名が一堂に集まっての楽しい大宴会となりました。珍しい太刀魚も含め



た高級刺身や鍋物、酒盗の珍しい塩辛や、マツタケ、漬物類、などなど、食べきれないほどの料理と共に宴は進み、最終的には 12 時過ぎまでやっていたようです。私も 11 時くらいまでは頑張っついて行きましたが、その辺が限界で 2F の寝床に入り、この日の研修を終えました。

翌日 2/5(日)は、朝食の後にステーション内の掃除・片づけをして現地解散となりました。朝食は何と早朝 5 時半頃から準備をして下さった様で、私が 1F に降りて行った時には既にテーブル上には朝食が並んでおり、恐縮すること甚だしでありました。昨晚の夕餉に続き何かから何までもお世話になりっ放しで申し訳ありません。と共に、有難うございました。

2 日目の天気は、6:30 頃はまだ曇り空で、乗鞍の稜線は雲の中でしたがスキー場は眺めることが出来、午前中のスキーを期待したのですが、8 時頃には白いものが落ち始めその後本降りの雪模様となってしまいました。私も含めて皆さんもこの天気ではハイキングもスキーも中止という事のように、8:30 頃にはステーションの玄関前で全体写真を撮って解散となりました。

私にとっては昨年 5 月の中央アルプス千畳敷ホテル、木曾駒岳、宝剣岳の研修会、そして 9 月の遠見尾根からのカクネ里氷河の観察研修会以来、今年度 3 回目の参加でしたが、北穂小屋・滝谷の貴重なお話が聞けた次田先生の講演会と楽しい夕餉の会を皆様と共に過ごす事が出来ました。また、乗鞍ステーションは全館の暖房も十分で、備え付けの布団・

枕に新しいシーツ、綺麗な洋式水洗トイレ、洗面所でもお湯が出るなど、予想以上に快適な宿泊施設でした。冬の乗鞍ステーションで、今回ご参加の皆様と共に楽しい1泊2日を過ごせました事、誠に有難うございました。

鈴木 一

生物多様性を巡り ～春を求めて小田原・箱根方面を訪ねて～

地球上の生きものは、生命が誕生して以来、様々な環境に適応して進化し、3000万種とも言われる多様な生きものが生まれました。これらの命は食べる、食べられるなどの関係を持ち、網の目のような様々な関係でつながり、長い年月をかけて現在の地球の姿を作り上げて共に生きています。

2010年10月 COP10 として、名古屋で生物多様性条約締結し「自然と共生する世界」の実現を目指して2050年を目標に約束しました。

2011年3月の大震災を経て、「自然と共に生きること」の意味を問直し2020年そして2050年に向けての国家戦略を基礎として『真に豊かな社会づくり』が世界との約束なのです。

国境を越えて生きものたちは移動したり海の潮流により島国「日本」はつながり合い支えあって共に生きています。

例えば蝶はある種においては、白っぽいモノと黒っぽいモノが 8:2 で生息していても、産業革命後に汚染により白と黒とが逆転してしまう変貌をとげたりします。

汚染により、白から黒に変わった世界では白が目立って鳥たちに目立ち食われるなどで逆転した例がそれです。温暖化による海の変化がサンゴの白化現状を拡大しても、生き延びる白化しない珊瑚が現れたりします。

交通網の整備により、峠の道がなくなったり、植林の成果で林が増えて草原が減少して昆虫が消えたり、昆虫の減少で鳥が少なくなったり、生活の変化が自然にあたえる変化が生きものに影響したりします。

『豊かな自然共存社会の実現』は、人と自然が共存する島「日本」では特に大切な営みなのです。

多様な自然環境の保全と再生は「可能な共生」の考えにより進める必要があります。

四季折々の美しい自然の中で美しく感動的な風景や花々が咲き誇る春を迎える今こそ「生物多様性」を学び考える良いチャンスです。大震災と原発事故から7年目となる今こそ「生きものたちのつながり」にたまには想いをめぐらせてみましょう。

富士山の登山口、富士吉田にある環境省の「生物多様性センター」見学無料の施設なんです。また、宇宙誕生から143億年 地球誕生から46億年 を学べる、神奈川県立「生命の星・地球博物館」も長い歩みに想いをめぐらす事の出来る素敵な場所です。

相模湾のお魚や真鶴や小田原・箱根と糸魚川・静岡構造線を南下して日本列島の成り立ちにも思いを巡らせ蒲鉾も味わう、小さな旅をおすすめします。

小林 久雄



2017 年度通常総会報告

友の会『総会』と百瀬さんの『憧憬の森講演会』《我が山書》が4月2日(日)に松本市駅前会館にて行われました。

2016年報告と2017年の計画及び予算について無事に了承されました。新しく参与に市川荘一さんと高橋和之さん、新副会長に奥原仁作さんがそれぞれ承認されました。

昨年度は毎月のように行事が予定されたこともあり、今年度は少し日帰りなども増やしました。また、昨年度の『岳問のすすめ』も今年も予定されて、今年度は東京でも二度ほど予定されます。初回は我等が鈴木教授が講演の予定ですので奮って参加ください。

2017年の主な計画では、東北山形の『出羽三山を訪ねる』と『御在所岳とお伊勢めぐり』の県外の予定も二度あり、上高地は「中尾峠を訪ね西系屋に宿泊」のW奥原講演会も予定しますので、調整して参加をよろしく願います。

さて、百瀬さんの『憧憬の森講演会』《我が山書》は65歳から「山書」と関わったとは思えない内容と素敵な本の数々で講演会スケジュールを目いっぱい熱演でした。特に浅間温泉「目の湯」に宿泊し、徳本峠を越えて高村光太郎と千恵子が上高地の温泉ホテルに来たお話や、蓑虫の装丁の本や結城紬の装丁本など珍しい本もお見せいただきました。また、大口沢の船石の神社のお話はお諏訪様の神様方のお話とも関連して愉しくお聞きしました。

山の本を収集して博物館や松本市の奨める「岳都・学都・樂都」にも勢いのある発言に元気をいただいた『憧憬の森講演会』《我が山書》でした。

その後駅前に会場を移して懇親会も愉しく出来ました。

小林 久雄

次に総会資料を添付します。

なお、監査により、収支決算について適正に処理が行われていることが確認されました。

「信州大学山岳友の会」規約 (改正案)

(名称)

第1条 この会は、信州大学山岳友の会（以下「友の会」という）と称する。

(事務局)

第2条 友の会の事務局は信州大学山の環境研究センター（以下「研究センター」という）に置く。

(目的)

第3条 友の会は、研究センターの活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 友の会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- 一 研究センターの活動を支援する事業
- 二 会員相互の交流を深める事業
- 三 会報の発行
- 四 友の会の普及と発展に必要な事業
- 五 その他友の会の目的を達成するために必要な活動

(会員)

第5条 友の会の会員は次のとおりである。

- 一 正会員 会の目的に賛同する個人
- 二 家族会員 会の目的に賛同する生計を一にする家族
- 三 学生会員 会の目的に賛同する生徒又は学生
- 四 賛助会員 会を支援する個人又は団体

(入会及び脱会)

第6条 友の会の趣旨に賛同し入会しようとするものは、所定の入会申込書を提出するものとする。

- 2 会員が脱会しようとするときは、所定の脱会届を提出するものとする。また、会費納付期限日から3ヶ月を経過する日までに会費の納付が無い場合は、脱会したものとみなす。

(会員の特典)

第7条 会員は、次の特典を受けることができる。

- 一 研究センターの主催する事業への参加
- 二 友の会主催する事業への参加
- 三 会員相互の交流を深める事業への参加
- 四 会報の配布

(会費)

第8条 会費は、入会時及び毎年5月31日までに当該年度分として次の額を納める。

- 一 正会員 年額 3,000円/人
- 二 家族会員 年額 5,000円/家族
- 三 学生会員 年額 500円/人
- 四 賛助会員 年額 1口10,000円以上

(役員)

第9条 友の会には次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 2名
- 三 運営委員 10名程度
- 四 監事 2名

(役員の仕事)

第10条 会長は、友の会を代表し会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその仕事を代理する。

- 3 運営委員は、運営委員会を組織し、事業の企画、立案及び調整を図る。
運営委員長は運営委員の互選とする。
- 4 監事は、事業及び会計の監査を行う。
(役員を選出)

第11条 役員は、総会において会員の中から選任する。
(役員の任期)

第12条 役員は任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 欠員を生じたために就任した役員は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は任期が満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその任務を行う。
(顧問)

第13条 友の会に顧問**及び参与**を置くことができる。

- 2 顧問**及び参与**は、会長が委嘱し、**運営委員会で承認する**。
(会議)

第14条 会議は、総会及び運営委員会とする。

- 2 総会は、これを通常総会及び臨時総会とする。通常総会は毎年開催し、臨時総会は必要に応じ開催する。総会は会長が招集し、総会の議長は出席した正会員から選任する。
- 3 運営委員会は必要に応じ運営委員長が招集する。運営委員会には、必要に応じ部会をおくことができる。
(議決)

第15条 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決定し、可否同数のときは議長の決するところとする。
(総会付議事項)

第16条 総会に付議する事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 事業計画及び収支予算
- 二 事業報告及び収支決算
- 三 規約の変更
- 四 役員を選任
- 五 その他友の会の運営に関わる事項

(運営委員会付議事項)

第17条 運営委員会に付議する事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 総会に付議する事項
- 二 事業の企画、立案及び調整等
- 三 その他運営委員長が必要と認めた事項

(会計)

第18条 会の経費は、会費その他の収入をもってこれに充てる。
(会計年度)

第19条 会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
(補則)

第20条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、運営委員会において定める。

附 則

この規約は平成23年4月1日より施行する。

この規約は平成24年4月8日より改正する。

この規約は平成27年4月6日より改正する。

この規約は平成29年4月2日より改正する。

友の会役員(2017-2018年度) (案)

会長	山口 孝
副会長	奥原 仁作
	三浦 方也
運営委員長	小林 久雄
運営委員	栗澤 徹
	神谷 圭子
	小林 実
	澤田 義幸
	立花 裕美子
	渡邊 修
	島村 芳太郎
	竹原 文子
	中村 秋男
	細萱 繁
	松田 俊雄
	百瀬 武
監事	藤澤 高穂
	山田 直
顧問	青柳 薫
	小林 銀一
参与	市川 荘一
	高橋 和之

2016年度友の会事業報告

設立6年目の2016年度も様々な事業をほぼ計画通りに開催することができました。

以下、主な事業について報告します。

○総会

通常総会、4月2日(土)、松本市駅前会館、27名参加(委任状75通)

○運営委員会

第11回運営委員会、3月6日(月)、神谷圭子会員宅、11名参加

○憧憬の森講演会

第9回憧憬の森講演会、12月3日(土)、松本駅前会館、35名参加

「潤沢は僕の原点」、講師：小口和利氏

○現地研修会

第25回現地研修会、5月21日-22日「中央アルプス千畳敷を訪ねる」、23名参加

「中央アルプスの植物・動物」小川清美氏、

「木曾駒ヶ岳・千畳敷観光の歴史」森川 優会員

第26回現地研修会、8月29日-31日「高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉」、22名参加

第27回現地研修会、9月10日「カクネ里大雪渓を遠望する」、講師：佐々木明彦会員、17名参加

第28回現地研修会、10月22日-23日「青崩峠・兵越峠を訪ねる南信濃の旅」、17名参加

第29回現地研修会、11月19日「中山道鳥居峠越えー蕨原宿から奈良井宿へ」

講師：秋山文太郎氏、15名参加

第30回現地研修会、2月4日-5日「北穂小屋とスキー人生」講師：次田経雄氏、15名参加

○会員集会、12月3日(土)、松本市駅前会館、35名参加

○上高地・乗鞍キッズキャンプ、8月4日-5日、キッズ26名、会員スタッフ11名参加

○第23回上高地談話会、6月11日-12日、横尾山荘、17名参加

「横尾山荘事情」講師：山田 直会員

○第24回上高地談話会(第7回潤沢談話会)、7月7日-8日、潤沢ヒュッテ、22名参加

「北アルプスの周氷河環境」講師：高橋伸幸氏(北海学園大学)

○会報の発行、4回発行(4月12日、9月21日、11月2日、1月15日)

○信州大学・読売新聞社共催の連続講座「岳問のすすめ」に会員随時参加

○上高地ステーションの整備を実施、随時

2016年度 友の会 会計報告

	収 入	支 出	
繰越金	¥853,738 …①		
会費	¥306,000	事務用品	¥1,429
正会員	102名	DM便・郵便	¥102,608
家族会員	4家族	管理費 計	¥104,037 …⑥
学生会員	8名	事業費	
賛助会員	12口	現地研修会25	¥480,922
正会員(過年度)	5名	上高地談話会	¥178,800
家族会員(過年度)	1家族	キッズキャンプ	¥283,982
年会費 計	¥470,000 …②	現地研修会26	¥1,090,637
	0	現地研修会27	¥37,400
事業費	¥440,000	現地研修会28	¥327,246
現地研修会25	22名	現地研修会29	¥11,604
上高地談話会	17名	現地研修会30	¥69,403
キッズキャンプ	26名	事業費 計	¥2,479,994 …⑦
現地研修会26	22名	会議費	
現地研修会27	17名	総会会場使用料	¥1,950
現地研修会28	16名	総会茶菓子代	¥4,827
現地研修会29	15名	憧憬の森講演会会場使用料	¥11,090
現地研修会30	15名	会議費 計	¥17,867 …⑧
	¥75,000	報償費	
	¥2,009,000 …③	第29回現研講師謝金	¥10,000 …⑨
その他	¥2,000 …④	その他	
	¥3,334,738 …⑤	封詰作業御礼	¥4,000
収入合計 (①～④合計)	¥3,334,738 …⑤	御祝花代	¥5,400
		涸沢談話会振込手数料	¥540
			¥9,940 …⑩
差引残高	(⑤-⑩)	支出合計 (⑥～⑩合計)	¥2,621,838 …⑪
	¥712,900		
	¥24,000		
	¥20,000		
	¥0		
	¥756,900		

2017年度会費(正会員 8名) 2017年度会費(正会員 8名)
 現地研修会31参加費として 現地研修会31参加費として
 ※ 次年度現研参加費一部として預かり(前年度7,000円については全額返金済)

3.29現在残

2017年度信州大学山岳友の会事業計画（案）

基本方針

友の会は設立7年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究（山の環境研究センター）を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 自然の中で子どもたちの豊かな感性を育てる取り組みを進めます。
4. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
5. 会員を増やし、会の活動を充実します。
6. 会報は、会員の協力をいただき4回発行します。

事業計画

期 日	内容等	対象者	備考（場所等）
4月2日(日)	通常総会 憧憬の森講演会 「我が山書」百瀬 武会員	会員	松本市駅前会館
4月22日(土)	第31回現地研修会 花桃の昼神温泉を訪ね 平和を考える 阿智村満蒙開拓平和祈念館ほか	会員	阿智村
5月20日(土)	岳間のすすめ「南極の高地で気候変動を探る」 鈴木啓助会員	会員他	信州大学理学部
6月24日(土)	岳間のすすめ「空から見る日本アルプスの地形」 専修大学 荻谷愛彦先生	会員他	帝京科学大学
7月5日(水)・ 7月6日(木)	第25回上高地談話会(第8回涸沢談話会) 「北穂小屋のあれこれ」 小山義秀会員	会員	涸沢ヒュッテ
7月29日(土)	岳間のすすめ「高山植物の暮らしと環境変動」 長野県環境保全研究所 尾関雅章先生	会員他	信州大学理学部
8月3日(木)・ 8月4日(金)	こどもキャンプ-夏	こども	乗鞍ST
8月28日(月)・ 8月30日(水)	第32回現地研修会 出羽三山を巡る山行 (先着25名)	会員	2泊3日
9月8日(金) 9月9日(土)	第33回現地研修会 講師:奥原仁作会員、奥原宰会員	会員	西糸屋
10月14日(土)・ 10月15日(日)	第34回現地研修会 鈴鹿山脈御在所岳と伊勢神宮	会員	三重県
10月28日(土)	岳間のすすめ「山麓に暮らす蝶と人々」 帝京科学大学 江田慧子先生	会員他	帝京科学大学
11月25日(土)	岳間のすすめ「ライチョウを生息域外で飼育する」 大町市山岳博物館 宮野典夫先生	会員他	信州大学理学部
12月2日(土)	信州フィールド科学賞授賞式・講演会 憧憬の森講演会及び忘年会	会員	松本市駅前会館
1月27日(土)	岳間のすすめ「登山用品の進歩」 株式会社モンベル 金森 智先生	会員他	信州大学理学部
2月24日(土)・ 2月25日(日)	第35回現地研修会 「持続可能な社会に向けて」 中村秋男会員	会員	乗鞍ST

2017年度 友の会 収支予算(案)

収入の部

(円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	増 減	備 考
繰越金	712,900	853,738	△ 140,838	前年度繰越金
会費	450,000	470,000	△ 20,000	正 会 員:102名 306,000 家族会員:4家族 20,000 学生会員:8名 4,000 賛助会員:12口 120,000
事業参加費	2,000,000	2,009,000	△ 9,000	
雑収入	0	2,000	△ 2,000	
計	3,162,900	3,334,738	△ 171,838	

支出の部

管理費	130,000	104,037	25,963	メール便等 80,000 消耗品費 50,000
事業費	2,500,000	2,479,994	20,006	
報償費	40,000	10,000	30,000	講師謝礼:2回 40,000
会議費	20,000	17,867	2,133	総会 10,000 講演会 10,000
雑費	472,900	9,940	462,960	
計	3,162,900	2,621,838	541,062	

信州大学山岳友の会会報 第25号
 発行日：2017年4月19日
 発行：信州大学山岳友の会
 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
 信州大学山岳友の会事務局
 FAX：0263-37-2438
 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp